# にも通信

Vol. 06

令和4年度 第2号 令 和 4 年 9 月 吉 日

に も 包括 精神障害の有無や程度にかかわらず、誰もが安心して自分らしく暮らせることができるよう、 包括的なシステムを構築していく取り組み

# "協議の場" 2年ぶりの開催

「天高く馬肥ゆる秋」半袖にしようか、長袖にしよ うか迷う季節になりました。にも通信も第6号です。

去る令和4年9月9日に、令和4年度第1回精神 障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築推進 連絡会議(通称:協議の場)を対面にて開催するこ とができました。(29機関 33名が出席)

協議の場は、主に市内における包括ケアシステム の構築状況の確認やその他の会議等で抽出された課 題についての検討を行います。

この2年間は書面開催となりましたので、

「さいかい (再開・再会)」をテーマとし、意見 交換を中心に行いました。今年度の協議の場から、 医療機関や相談支援事業所等の支援関係者、地域移 行支援ピアサポーター等に加え、新たに家族にも参 加いただきました。



事務局からは、にも包括に関する国の動向や今年 度の取組について説明を行いました。今年度、特に 力を入れる取組として、

「地域移行・地域定着」

「ピアサポーターの活用」

を挙げさせていただきました。

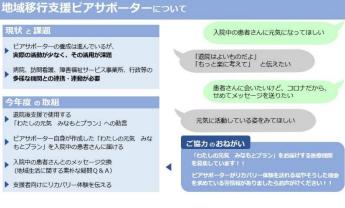
#### 本市の特徴



#### 地域移行・地域定着



#### 地域移行支援ピアサポーター



## グループ に分かれて意見交換

ランダムに分かれたグループごとに自己紹介、近況報告をした後、報告に関する感想や意見を共有しました。以下、参加者の声を一部抜粋したものをご報告いたします。



## 参加者の意見・感想

地域移行を進めることには賛成だが、 当事者の声によく耳を傾けてほしい。 実際問題として、退院後のアパート を借りるという時点でかなりのハード ルがあったりする。

意見交換をとおして、支援者とピアサポーターとの視点の違いを感じた。 当事者だから分かる辛さもあり、寄り

当事者だから分かる辛さもあり、奇り添えるのではないかと思う。サポートがあれば生活できることを伝えたい。

グループホームについては、計画 などでも事業所数を増やすことを掲げ ているが、実際には精神障害者への理 解のあるグループホームが増えていか ないといけないことに気付いた。

「仕組みづくり」が共通のキーワード。 入退院時における連携や地域移行について、現状では個人の力量に左右される要素が強く、こうした「仕組みづくり」も必要となっているのではないか。

今回は、「さいかい(再会・再開)」をテーマに、顔を合わせて話せる機会を持つことができました。意見交換では2年というブランクを感じさせない熱感があり、時間が足りないほどでした。様々な視点からの活発な意見交換の内容を踏まえ、にも包括を意識した地域づくりを目指していきたいと考えています。

協議の場は年度内にもう1回開催を予定しています。また、アウトリーチに関する研修会も 予定しておりますので、詳細が決まり次第周知したいと思います。



にも包括は支援機関の皆さまや地域の人たちとともに創り上げていくものです。 事務局では、地域で取り組んでいる活動や耳より情報、好事例などを広く募集しています。 電話でもメールでも構いません。ご意見・ご感想も含めてお待ちしております!!

<精神保健福祉課>☎ 0 4 2 - 7 6 9 - 9 8 1 3 ≤ seishinhoken@city.sagamihara.kanagawa.jp

